

第15回 体の動きを高める運動部会記録

参加者：河野・古川・畠中・岡田・山本・大川・関川・藤原・鈴木・小木曾、高橋・藤井
アドバイザー：森田
担当常任理事：高草木先生・黒澤先生

1 挨拶

河野：本日学習過程をつめる。学習資料のプロットも決めていく。

高草木先生：あと1ヶ月頑張りましょう。

2 学習過程について

畠中（授業者）より説明（資料参考）

(3) 学習過程 < 第6学年 体づくり運動 「 体の動きを高める運動 」 > 試作					
時間	0	1	2・3・4	5～7	8～10
段階	これまでの学習を振り返る 見直しをもつ		学習課題を見いだす	自己の学びを修正する	自己の学びを修正・活用する
			学習課題を解決する		
			高まりを実感する		
学習活動・内容	1 体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観る	1 体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観る	1 学習課題を確認する 2 ロードマップで前時の学びを共有する 3 準備運動		
	2 これまでの経験を振り返る	2 アンケートの結果を共有する	4 体の動きを高める運動に取り組む 【1時間ごとに自分が行う動きを選択して取り組む】	4 体の動きを高める運動に取り組む 【3時間分の自分が行いたい動きを選択して取り組む】	4 体の動きを高める運動に取り組む 【3時間分の自分が行いたい動きを選択して取り組む】
	3 運動アプリを使って、第1時で行う運動を選ぶ	3 準備運動	運動要素（巧み・柔らかさ・力・持続）、動きの数（1～3個が目安）、取り組む動き、時間配分等を自分で決めて運動に取り組む。 巧み（6種）…「ボールキャッチ」「ボールボリブル」「リズムカルコース走」「スラックライン」「パンブーステップ」「長なわ」 柔らかさ（4種）…「ボール転がし」「ゴムひもくぐり」「輪くぐり」「ウォーキングストレッチ」 力（3種）…「プッシュアップ」「自分運び」「とび箱ずもう」 持続（2種）…「エアロビクス」「ベース走」		
	4 Google フォームを活用したアンケートに取り組む	4 体の動きを高める運動に取り組む	5 整理運動		
	※朝自習の時間等を活用する。	5 ロードマップを作成する	6 振り返り 【次時に行う運動を選択する】		
		6 整理運動	5 整理運動		
教師のかかわり	○1の場面 「体の動きを高める運動って何？」 運動のプロモーションムービーを観ることで、昨年度までの経験を想起させ、体の動きを高める運動の学び方（目的・ポイント・工夫・高まりの実感）を確認する。		○4の場面 「何が高まりそう？」 「どうやったらできたの？」 「どんな工夫しているの？」 運動に取り組む目的、ポイント発見、動きの工夫を促し、高まりの実感につなげていく		○6の場面 「自分に合った運動だった？」 第5時に立てた3時間分の計画を基に取り組み、計画通り進めることができたのか振り返り、必要に応じて計画の修正を促していく。
					○2の場面 「自分の学びに生かせる？」 ロードマップを活用し、自分の現状を把握したり、個々の学習課題を共有したり、よりよい解決の仕方を共有したりすることができるように進める。

小木曾：5年からの接続をもう少し詳しく知りたい。場の設定は、子供が選んだときの人数差があったときどうするのか？自分なら場の設定の仕方変えたり、運動を2つくつつけるなど、そのとき調整する。

畠中：接続は、5年でやったこと引き出しつつ、リーフレットを使いたい。

岡田：実証までに自身が実践し、示せるようにする。

藤井：①運動量の確保・・・やることが多いのでは。（プロモーション、アンケート、ロードマップ、学習カードなど）

②1時間の中の共有について・・・どのようにするのか。個人でやるのか。

畠中：基本は学びのロードマップでとる。運動の間に入れる。そして、最後の振り返り。運動量は、シンプルを大事にしたい。目安として運動時間は30分取りたい。今後学習カードの使い方など、確認していきたい。

藤井：話を進めていく中でたくさんアイデアがでてきたので詰めきれていない。書く量も多くなっているように思える。まだチームでは話が止まっている状態。

岡田：学習過程を固めないと進められない。学習カードはそのあと。

森田：段階が3段になっているのが。学びの修正を3時間やるのか・・・本来なら矢印で循環があるのかな。

畠中：学習課題を解決する・高まりの実感を帯で伝えかった。

岡田：学習課題見出して→学習課題を解決して→高まりを実感する。

そうすると、これまでの学びを活用・修正するかな。区切りがあるから分かりづらさがあるので、何か矢印でうまくやれないか。

河野：5～10を斜め線にしては。学習課題を解決するは、運動の特性でもあり、当然なので明記しなくてもいいと思う。

森田：区切ると個別最適化にならないかも。

山本：斜め線のほうがわかりやすい。

・振り返りの場面の発問が子供にとって分かりづらいかな。「次はどうする？」のほうがシンプルで伝わりやすい。第5時に計画を立てるところがもう少し分かりやすく表記されているといい。取り組む動き？取り組む運動？部会としてどうだったか？→動き

河野：4の終わりと7の終わりに計画を立てるがいいのでは。「動き」という言葉については、もう一度言葉を整理する。

畠中：過去の資料にあるので確認する。

関川：続けて10時間やるのか。1期、2期のように分けないのか。一般化を考えると分けた方がやりやすいのでは。4時で一度区切ってはどうか。0時があると、実際やりやすい。毎回1時が盛りだくさんになってしまう。

畠中：イメージとして、1期2期。

河野：1期2期については、3時間で1パックという考え。あとは学校の実態で。区切ることで日常化もはかれそう。

岡田：今年度は今回畠中先生が考えた学習過程でよいかと。細かい修正をしていく。教師の関わりの部分を今後詰めていく。

河野：これまでの研究がよく練り込まれたよい学習過程だと思う。0時と明記するのは検討。単元計画には載せなくてもいい。

3 実証授業について

畠中：実証授業の参加人数上限のスタートは50名。常任理事の先生と今後相談。

河野：人数によって開催通知の出し方が変わる。ギャラリーがあるので、そこも生かせそう。

黒澤先生：50名だと外から人を呼べないから100名からいきたい。他領域の中には30名という部もある。体育館で100名は多い気もしている。上限100名でそれ以下というのがよいと思う。

畠中：ギャラリーの分も含めて学校に確認する。その後常任理事の先生へ連絡します。

4 運動例のレイアウトについて

河野：「高まりの実感を実感しよう」という項目は必要か。

山本：そもそもこれは何のために使うのか？

岡田：アプリと併用していくイメージ。学校の環境によっては紙ベースもあるかと。

森田：高まりの実感を実感という言葉は違う。あとは、一人一人実感は違うから示す必要はない。シフトするのなら一気にする。アプリならアプリで。

畠中：これまで掲示物で工夫をためていた。自分はポイントや工夫など価値づけたものをどのようにためていくのか悩んでいる。共有するために使うのなら使えるかも。

岡田：掲示物として生かしていく。A4で2つの運動にして、それを拡大したらそんなに大きくならない。

畠中：ポイントはこれらを使い共有していくという共通理解で。

岡田：運動例チームで作成していく。

5 今後について（河野部長より）

- ・ 11月16日実証授業決定。講師の先生とも確認できている。
- ・ 事務手続きのスケジュールを立てたが、なかなか厳しいスケジュール。
- ・ 運動アプリ、運動例の資料を次回確認していく。11月のあたりに指導案印刷ができるように頑張る。
- ・ 講師の先生へ指導案を渡すのは、今年度どうするのか。
- ・ 指導案は、端的に示すようになる。
- ・ 次回は対面で部会を行う。場所は、豊洲西小の予定。

7 森田先生と常任理事より

森田：今、他業種の外部の人を教育現場に迎え入れる動きがある。でも、教師にしかできない、体育の授業をやってもらいたい。体育が苦手な先生は、はじめは体育の授業が楽しいと思ってほしい。

黒澤先生：掲示物のことだが、児童が実感したことを付箋とかで貼ってもいいかも。実証授業は多様と重なっている。データか紙かの問題は、まだ見えてこない。

高草木先生：実証授業の日程が変わったことで、行けることになった。日程はつまっているが頑張っていきましょう。